



埼玉県マスコット「コバトン」

Vol. 77

花とみとり

特集 これからの緑化を進める担い手の育成



【ヒトツバタゴ】

(モクセイ科ヒトツバタゴ属)

初夏に白い小花が樹いっばいに美しく咲きます。

タゴ(トネリコ)が羽状複葉に対し単葉(ひとつば)であることに由来します。

別名「なんじゃもんじゃ」として知られています。



【ダビディア】

(ミズキ科ダビディア属)

白い2枚のハンカチのように見えるのは、苞で、丸く見える部分に多数の花が集まっています。

春ばかり注目されますが、秋の落葉後、ピンポン玉くらいの大きさの丸い実が木にぶら下がっている姿もご覧ください。

別名「ハンカチノキ」として知られています。

《 巻頭言 》

埼玉県はご案内の通り、花植木の主要産地です。その歴史も古く、様々な緑化素材が生産されていることも特徴の一つです。また、それらの素材を活かした緑化産業も盛んに展開されており、一大緑化基地として首都圏で大きな役割を担っています。

これらの役割を支える人材も豊富で、古くから伝統を受け継ぐ職人さんから、造園会社で修業をしている若手まで多くの方が活躍しています。さらには、直接緑化産業に従事してはいないものの、ボランティアとして緑にかかわる人もたくさんいます。

緑化場面は人々の社会生活の変化に伴い多様化し、また常に変化しています。これらの状況を踏まえて、花と緑の振興センターではいろいろな立場の人を対象に研修を実施しています。今号は「これからの緑化を進める担い手の育成」と題して、研修活動を紹介させていただきます。



彩の国
埼玉県

埼玉県花と緑の振興センター



《 特集① 造園技術研修 》

当センターでは、埼玉県内に在住または在勤し埼玉県職業能力開発協会の実施する技能検定「造園」の1級または2級の受検申請をされた方を対象に、造園に必要な基礎知識及び技能修得を目的とした「造園技術研修」を毎年開催しています。内容としては、日本庭園の施工実習と樹種判断等試験で、技能検定実技試験「造園」1・2級の実技試験に対応した研修になります。

今年度も技能検定の合格を目指して、7月27日から8月25日まで実施された研修に10名が参加しました。

このような研修を実施している機関は他にあまりなく、県内植木生産者や造園業者、特に若手から資格取得のための技術習得の機会として参加への希望が多く寄せられています。



研修の様子（実技）



樹種判定の練習

《 特集② 街の緑サポーター養成研修 》

4月から2月まで16回にわたり開催した「街の緑サポーター養成研修」では、14人が修了しました。研修は、花壇の手入れ（腐葉土づくり、播種、鉢上げ、定植）、植物の増殖（挿し木、宿根草の株分け）、樹木管理（剪定・刈込、移植）、四ツ目垣作成など実技中心の内容となっています。この研修で習得した知識や技術を生かし、園芸ボランティアや緑化活動のリーダー役としての活躍が期待されます。



刈込作業



花壇苗の手入れ（摘芯作業）

《 緑のコラム① 園内樹木の紹介 》



【カルミア】（ツツジ科カルミア属）

北米東部が原産とされるこの樹木は、金平糖のようなつぼみとパラソルのような形の小さな花を密集して着けます。

白やピンクなどの色があり、初夏になると庭を明るく華やかに彩ります。

暑さや寒さにも強く、育てやすい低木の樹種です。

当センターには、正門を入れてすぐ左側にあり、開花時期にはよく目立ちます。

《 特集③ 花植木専門研修 》

新型コロナ感染防止対策のため、令和2年～4年度まで中止していた花植木専門研修を4年ぶりに開催しました。講師には元千葉県職員の柴田忠裕氏をお招きしました。研修には植木生産者・緑化関係業者、行政等関係機関39名が参加。「植木業界が元気になるには」と題して、これからの植木業界についてできることを、これまでの柴田氏の経験から様々な切り口と広い視点からお話ししていただきました。最後には自分で考え行動すること、仲間、知人との関係を構築し、やはり大事なものは人脈であると締めくくられました。



研修の様子



講師 柴田忠裕氏

《 特集④ ボランティア活動 》

当センターでは、緑化についての意識の向上と地域の身近な緑を管理するための技術を身につけていただきたいという思いから、園芸ボランティアとしての活動を希望している方を対象に、「街の緑サポーター養成研修」を開催しています。

研修を修了された方の多くは、当センター内の園芸ボランティアとして花壇・植栽の管理作業（除草や剪定）や園内のサクラやウメを鑑賞するツアーガイドなどの活動をしています（令和6年1月1日時点で、20団体122名）。

また、一部のボランティアは当センターだけでなく、県内にある植物園や公園でも、研修で学んだ知識や技術を活かした活動を行っています。

ボランティア活動の広がりにより、地域の美しい景観の維持や、地域住民同士のコミュニケーションの輪が広がることが期待されています。



園内管理ボランティア活動



サクラソウボランティア（芽分け・植付け）

《 緑のコラム② 団体紹介・花植木類利用拡大推進ネットワーク 》

2020年7月に設立されたこの団体は、400年の歴史を誇り全国でも指折りの生産額を誇る本県の花植木産業の発展、生活にゆとりや潤いをもたらす緑の増進を図っていくため、地域の生産、流通、販売などに携わる関係団体、企業が一体となって多様な実需の開拓、それへの対応を展開しています。特徴は、住宅建設などの身近な利用拡大、民間需要の惹起を旨として足腰を据えた活動を進めているところにあります。



住宅展示場での植栽展示

この団体についての詳細は、ホームページ以下のアドレスに掲載されています。ぜひ御覧ください。

<https://hanaueki-saitama.jp/>

《 特徴的な取組み 安行四季彩マット 》

埼玉県では、屋上の緑化を推進するため、平成8年度に安行四季彩マットを開発しました。

安行四季彩マットとは、土の代わりにポリプロピレン製の繊維状のマットに樹木や花木類を植え付けたものです。

薄く軽量のため設置が容易で、様々な種類の樹木をパズルのように組み合わせて設置することができ、屋上やベランダなどの緑化に適しています。

現在は、「川口市都市緑化植木生産組合（県内の植木を扱う5つの事業者で構成）」が安行四季彩マットを商品化して、公共施設の屋上や商業施設内緑化を行っています。

当センターでは、県内や都内で開催されるイベントなどを通じて、この取り組みを支援しています。



ミニマットを使っ
ての箱庭風ア
レンジ



安行四季彩マ
ット植木（紅
梅）

《 トピックス① 緑化講座 》

県民の方に花や緑、自然に親しむきっかけとなつていただくことを目的に開催している緑化講座。

令和5年度は①花木類の挿し木、②アジサイで作るサマーリース、③松ぼっくりで作るクリスマスオーナメント、④サクラソウ植付講座、⑤盆栽講座、⑥庭木の病害虫対策の6講座を開催し、計120名の方に参加していただきました。

令和6年度も引き続き、県民の方に緑に関心を持っていただけるような緑化講座を開催予定です。



クリスマスオー
ナメント作り

《 トピックス② 企画展示 》

当センターでは、樹木などの植栽を見学できる展示園の他に、花・植木をもっと身近に知っていただけるよう、時期ごとにテーマを作り、庁舎ロビーで企画展示を行っています。

テーマは、サクラソウの様々な品種、涼しさを演出する水生植物を活用したレイアウト、様々な木の実などの紹介から、国家資格試験（造園技能士）対策にもなる樹種判定（木の種類を当てる）クイズなど、多種に渡っています。展示する植物はすべて当センターの展示園内で採取したもので、近くで観察することで、より植物への理解を深めることができます。

当センターの展示園にお越しの際は、ぜひ庁舎ロビーの展示もご覧ください。



いろいろな園内樹木の葉の展示

発行 埼玉県花と緑の振興センター

発行人 所長 長嶋 聡

電話 048-295-1806 FAX 048-290-1012

E-mail h951806@pref.saitama.lg.jp

ホームページ <http://www.pref.saitama.lg.jp/hana-midori/index.html>

